

新有権者等若年層の参院選投票日後の意識調査について

明るい選挙推進協会では、第24回参議院議員通常選挙の投票日後、18歳、19歳の新有権者をはじめとする若者の政治意識を探るため、全国の18歳から24歳の男女1,900人を対象に、インターネット調査を実施しました。調査の概要は以下のとおりです。次頁以降に主な調査結果を紹介しています。（調査実施7月11日から7月14日）

調査結果要旨

○国や地方の政治の動向にどの程度注目しているか、調査対象者全員に尋ねたところ、国の政治に51.6%が、都道府県の政治に39.6%が、市区町村の政治に34.6%が「注目している（とても＋ときどき）」と回答した。参院選公示日前に行った調査（以下、「参院選前調査」という）では、国や地方の政治の関心度を尋ねたが、国の政治に52.1%の人が関心があると回答している（非常に関心がある＋ある程度関心がある）。年齢を問わず有権者は国の動向に注視していることがうかがえる。

○国や地方の政治をどの程度信頼しているか、調査対象者全員に尋ねたところ、国の政治に23.4%が、都道府県の政治に30.1%が、市区町村の政治に32.3%が「信頼している（とても＋だいたい）」と回答した。全般的にいずれのレベルについても政治への信頼は低い、特に国の政治への信頼度が低い。

○引っ越しをした場合は、住民票の異動が必要なことを知っていたか、調査対象者全員に尋ねたところ、「知っていた」と回答したのは全体では76.7%と大半の人は認知していた。

○現在住んでいる市区町村で投票をするには、住民票を移してから3ヶ月以上住んでいなければならないが、調査対象者全員にこのことを知っていたかを尋ねたところ、知っていた人は42.8%と半数に達しなかった。参院選前調査でも同様に尋ねたが、このときは今回よりさらに低く36.2%であった。選挙期間中の各種情報で知識が高まったことが考えられる。

○現在住んでいる市区町村に、7月10日（日）に行われた参院選の選挙権があったか、聞いた。全体では69.0%が「現在住んでいる市区町村に選挙権があった」と回答した。調査対象者を学生と社会人に分けて見たところ、学生の64.5%、社会人の74.9%が「現在住んでいる市区町村に選挙権があった」と回答した。現在住んでいる市区町村に選挙権がある人となない人では投票行動に大きな違いが見られた。

○参議院選挙の投票に行ったか、調査対象者全員に尋ねたところ53.7%の人が投票に行ったと回答した。年齢別では新有権者である18・19歳、及び20歳は、21～24歳より「投票に行った」割合が高かった。

○参議院選挙の投票に行った人(1021人、以下「投票に行った人」という)に投票方法を尋ねたところ。「当日投票した」人は67.9%、「期日前投票をした」人は26.3%、「不在者投票をした」人は4.3%であった。

近年の選挙結果と比較すると、不在者投票をした人の割合が高く、特に、18・19歳は、それぞれ8.0%、7.3%と非常に高かった。

○投票に行った人に、参議院選挙の投票は誰と行ったか尋ねたところ、50.6%の人が家族と、46.1%の人が一人で、2.9%の人が友人と行ったと回答した。18～20歳は家族と行った人が過半数を超えていた。

○投票に行った人に、投票に行ったのはどういう気持ちからか、8つの選択肢の中から選択してもらった。選択された上位3つは「投票をするのは国民の義務だから」(42.8%)、「政治をよくするためには、投票することが大事だから」(41.0%)、「選挙に行ったほうが何となくいいと思ったから」(31.9%)であった。年齢別に見ると18・19歳の上位3つには「選挙年齢引下後に初めて行われた国政選挙だったから」が入っていた。

○投票に行った人に、参院選の比例代表選挙で投票したのは何党、または何党の候補者だったかを聞いた。投票に行った人の内、「何も書かなかった」、「わからない・答えたくない」を選択した人を除いて見ると、自民党に42.0%、民進党に19.0%、おおさか維新の会に8.7%、共産党に7.8%、公明党に7.6%の人が投票したと回答した。

○投票に行かなかった人に、参院選の投票に行かなかったのはなぜか、10の選択肢の中から選択してもらった。上位3つの選択肢は「面倒だったから」(29.4%)、「選挙にあまり関心がなかったから」(26.4%)、「現在の居住地で投票ができなかったから」(22.8%)であった。年齢別では18～20歳までは「現在の居住地で投票ができなかったから」が最も多く選択されていた。

○調査対象者全員に、政治や選挙に関して見たり聞いたりしたものについて、15の選択肢の中から選んでもらった。上位3つの選択肢は「政党や候補者のポスター」(45.1%)、「テレビのニュースや報道番組」(32.1%)、「政党や候補者の政見放送」(22.2%)であった。年齢別に見ても概ね同じであったが、「家族との話」は若い人ほど多く、年齢が上がるにつれ選択率は低下している。相対的に見て18～20歳は、21歳以降の人より何らかの選挙情報を得ようとしたことがうかがえる。

○調査対象者全員に、親御さんの投票について行ったことがあるか、尋ねたところ、43.4%の人が親と投票所に行ったことが「ある」と回答した。この体験が投票行動に影響していると考えられる。

○調査対象者全員に、高校の時に、選挙に関する授業等を受けたことがあるか、それは参考になったかを10の選択肢の中から選択してもらった。調査対象者を「18・19歳」、「20～24歳」と2つのグループに分けて見ると、20～24歳の人よりも18・19歳の人の方が選挙に関する授業を受けていた。18・19歳の人について、授業内容の上位3つを見ると、「選挙の仕組みを学ぶ授業」(48.4%)、「若者の投票率の低さや選挙の重要性を学ぶ授業」(23.1%)、「投票の手順など投票方法を学ぶ授業」(19.6%)であった。いずれも選択率は半分に満たないものの、受けた人の過半数は参考になったと回答している。

○選挙に関する授業を受けたことがある人と受けたことはない人（「この中にはない」を選択した人）の投票行動を「18・19歳」と「20～24歳」に分けて見てみると、どちらも受けたことがある人の方が受けたことはない人より投票に行ったと回答している。特に18・19歳の方がその割合が大きい。

1 調査対象モニター基礎情報

(1) 性・年齢別モニター数

	18歳	19歳	20歳	21歳	22歳	23歳	24歳	合計
男性	112	163	133	125	130	138	155	956
女性	138	159	108	132	135	141	131	944
合計	250	322	241	257	265	279	286	1900

(2) 居住エリア別モニター数

	18歳	19歳	20歳	21歳	22歳	23歳	24歳	合計
北海道	15	11	8	16	12	12	10	84
東北	14	28	20	13	20	12	19	126
関東	17	19	16	20	18	15	13	118
京浜/一都三県	64	89	75	76	75	84	102	565
北陸	12	23	9	15	21	15	13	108
東海	35	36	24	26	24	37	37	219
京阪神	45	54	42	41	43	52	42	319
中国	19	13	15	15	15	16	13	106
四国	6	9	6	7	7	8	8	51
九州	23	40	26	28	30	28	29	204
合計	250	322	241	257	265	279	286	1900

2 主な調査結果

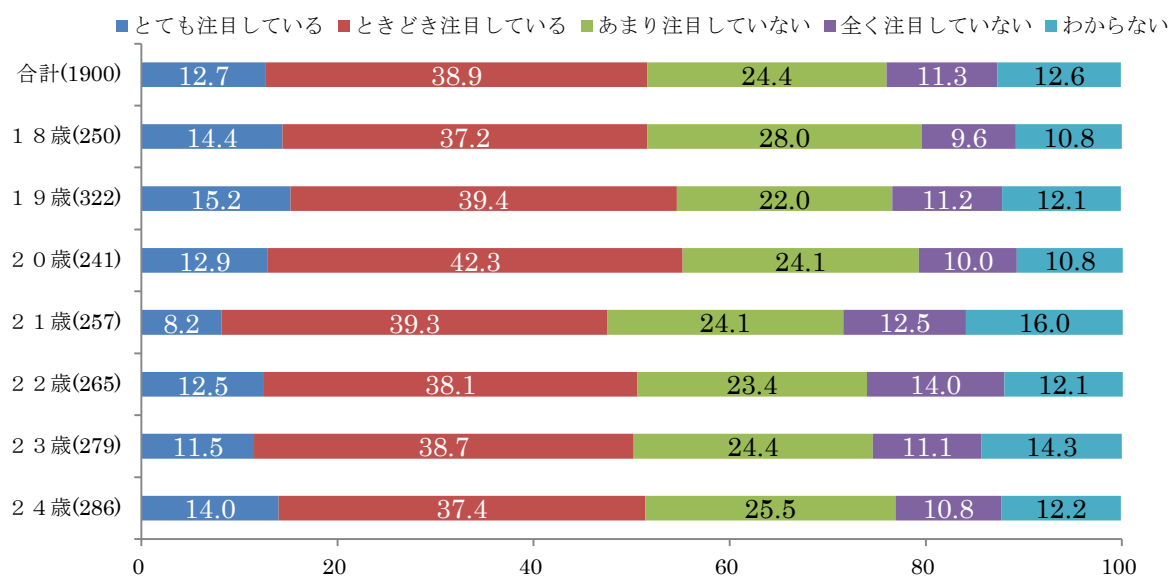
① あなたは、国や地方の政治の動向にどの程度注目していますか。

調査対象者全員に、国、都道府県、市区町村とレベルごとに、政治への注目度を尋ねた。

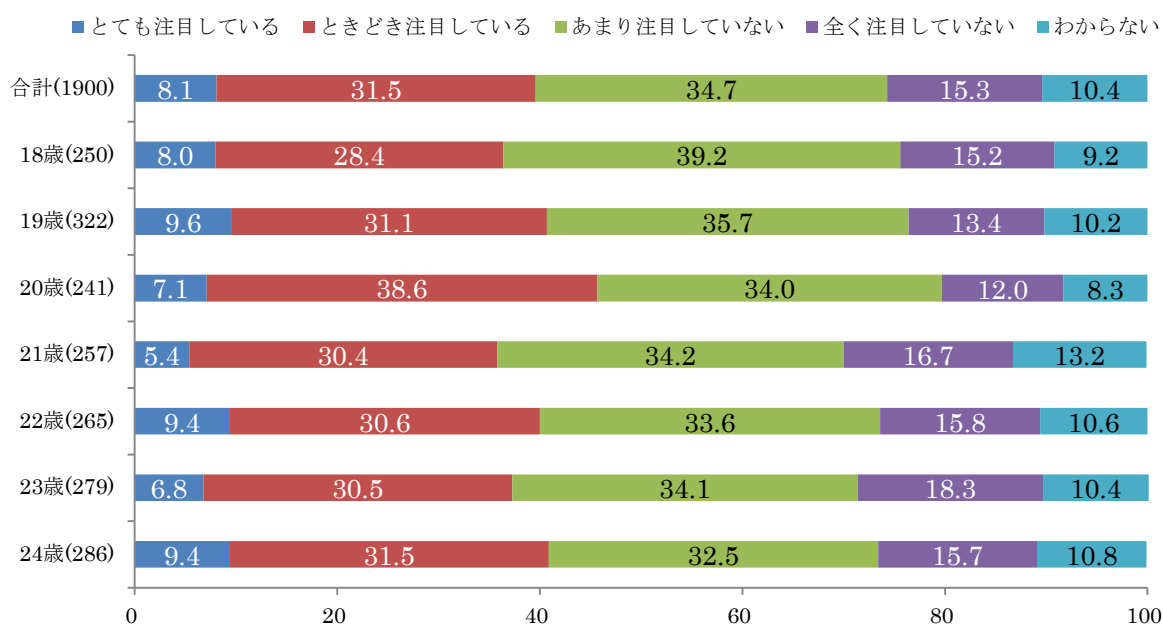
全体で見ると、国へは51.6%が、都道府県へは39.6%が、市区町村へは34.6%が「注目している（とても＋ときどき）」と回答した。国が最も高く、5割を超えた。参院選の公示日前に行った調査（対象：15～24歳。以下、「参院選前調査」という）では「あなたは国や地方の政治にどの程度関心がありますか」と尋ねたが、国は52.1%、都道府県は47.6%、市区町村は44.1%の人が「関心がある（非常に関心がある＋ある程度関心がある）」と回答しており、今回の調査と同じ順位だった。

なお、統一地方選挙後に毎回行っている意識調査（対象：20歳以上）では、国政・地方選挙の中で関心のある選挙を尋ねている。各調査とも衆院選への関心が最も高いが、都道府県の選挙（知事、議員）と市区町村の選挙（長、議員）の比較では、前者より後者への関心の方が高い。今回の調査及び参院選前調査は、この点が異なっているが、東京都知事選挙が話題を呼んだ時期と重なったことが影響しているのかも知れない。

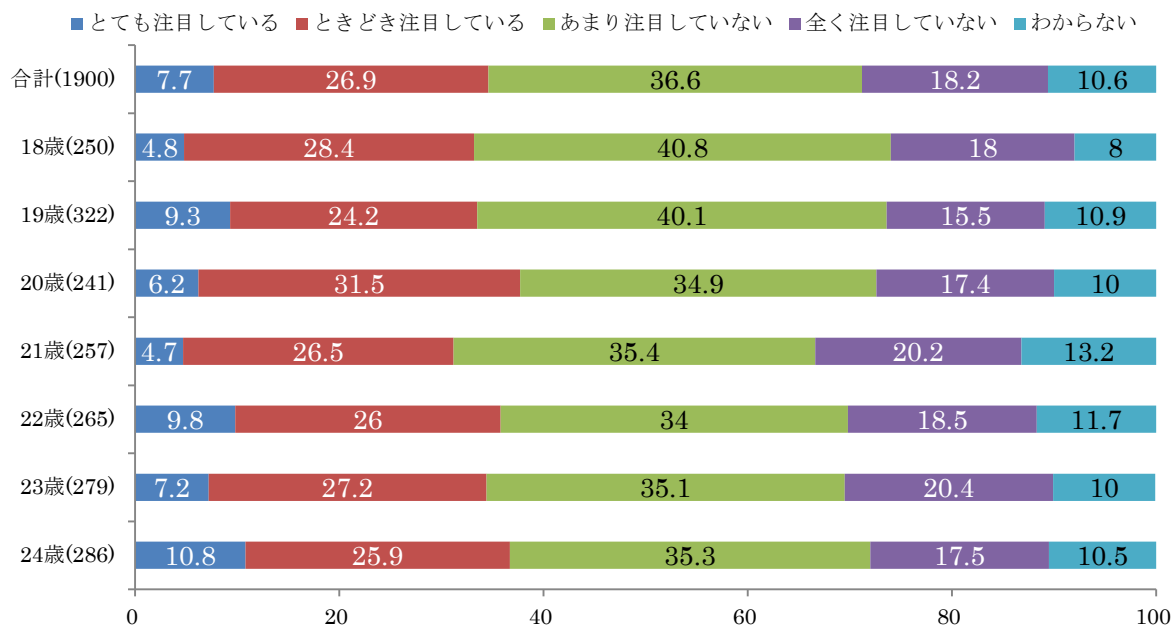
ア 国の政治への注目



イ 都道府県の政治への注目



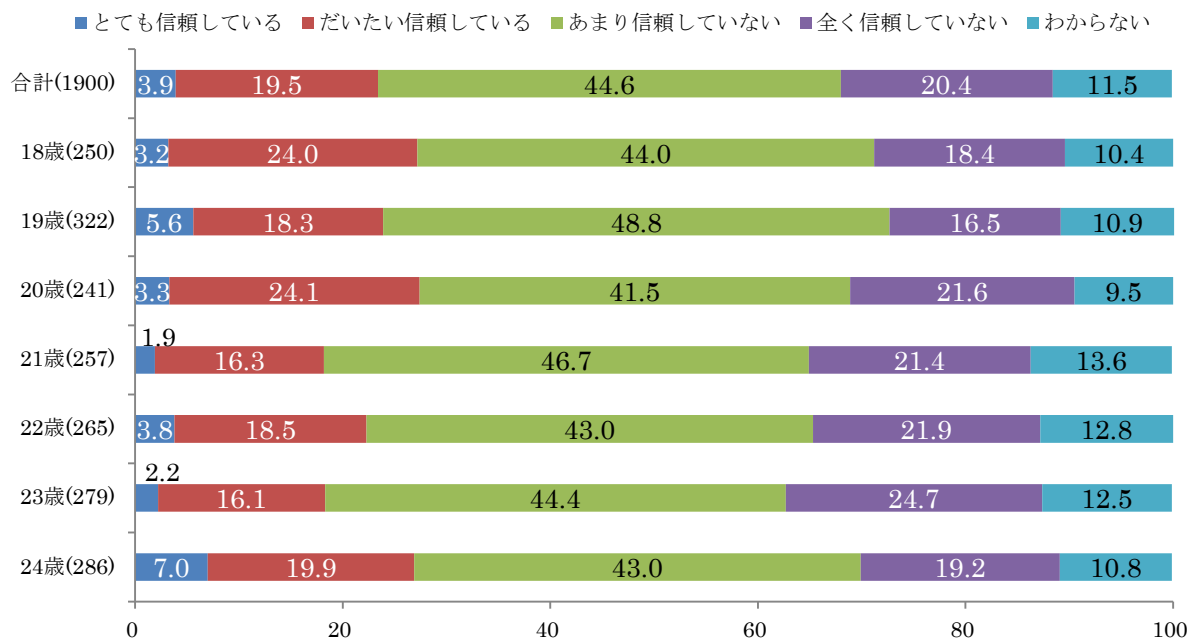
ウ 市区町村の政治への注目



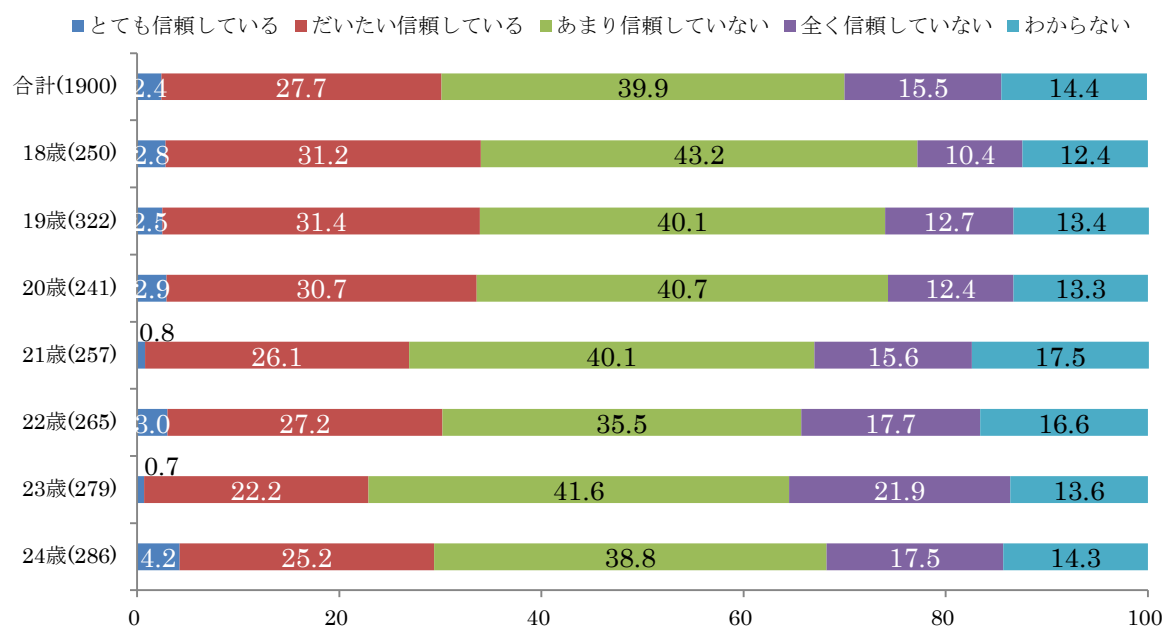
② あなたは、国や地方の政治をどの程度信頼していますか。

調査対象者全員に、国、都道府県、市区町村とレベルごとの政治への信頼を尋ねた。全体で見ると、総じて政治への信頼は低く、「信頼している（とても＋だいたい）」と回答したのは、国へは 23.4%が、都道府県へは 30.1%が、市区町村へは 32.3%に過ぎなかった。①とは対照的に国の政治への信頼が最も低い結果となった。

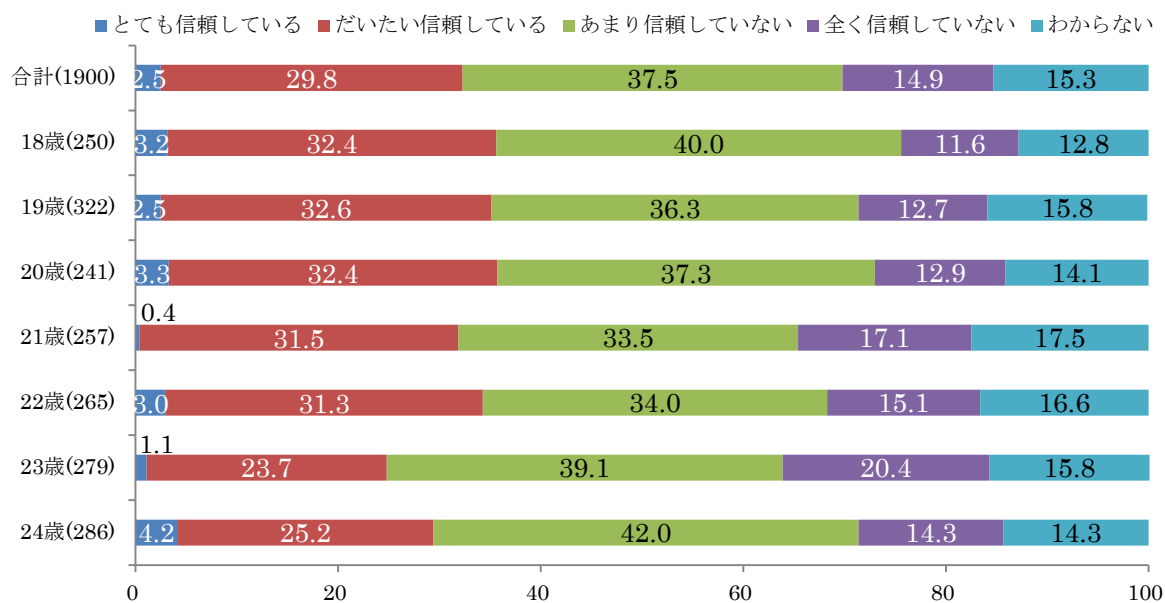
ア 国の政治への信頼



イ 都道府県の政治への信頼

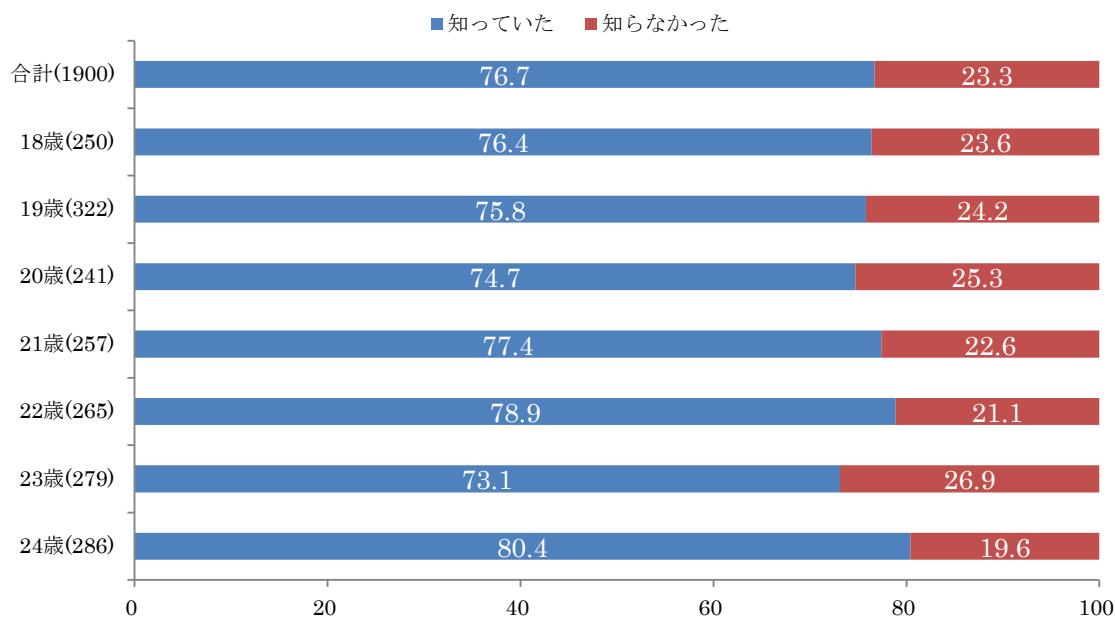


ウ 市区町村の政治への信頼



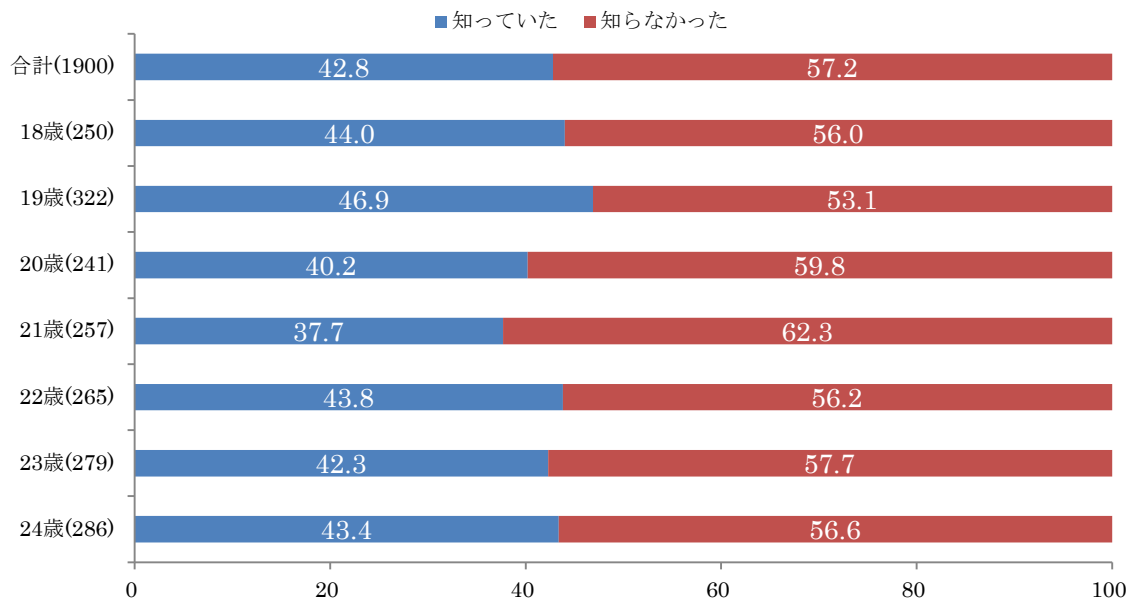
③ 進学や就職などに伴い、実家などを離れる方は、引っ越し先の市区町村へ住民票を移さなければなりません。あなたはこのことをご存知でしたか。

調査対象者全員に、引っ越し等の際の住民票異動についての知識の有無を尋ねた。「知っていた」と回答したのは全体では 76.7%で、年齢別に見ても特別な傾向はうかがえなかった。



④ 現在住んでいる市区町村で投票をするには、住民票を移してから3ヶ月以上住んでいなければなりません。あなたは、このことをご存知でしたか。

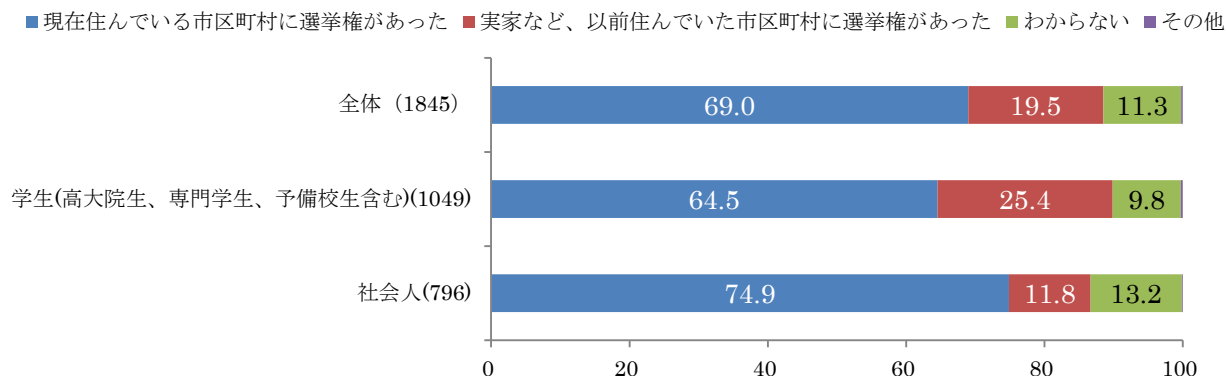
調査対象者全員に、投票と住民票異動の関係についての知識の有無を尋ねた。上記③とは対照的に、「知っていた」と回答した人は少なく、全体で 42.8%と半数に満たなかった。参院選前調査でも同様に尋ねたが、今回よりさらに低く 36.2%の人しか知っていなかった。選挙期間の各種情報を通じて、知っている人が増えたと解釈することもできる。



⑤ あなたは現在住んでいる市区町村に、7月10日（日）に行われた参院選の選挙権がありましたか。

調査対象者全員に聞いた。「現在住んでいる市区町村に選挙権があった」のは69.0%、「実家など、以前住んでいた市区町村に選挙権があった」のは19.5%、「わからない」が11.3%であった。

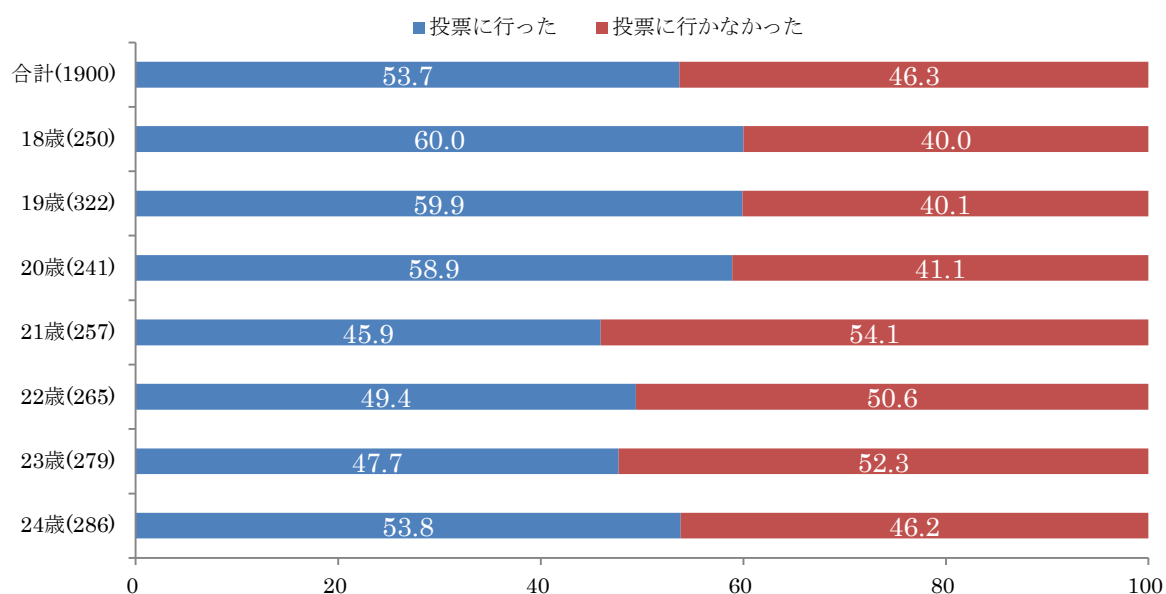
調査対象者を学生と社会人に区分して見ると、学生の64.5%、社会人の74.9%が「現在住んでいる市区町村に選挙権があった」と回答している。この結果を検証するため、参院選前調査と対比してみる。参院選前調査で「あなたは親御さんと一緒に住んでいますか」と尋ねたが、「一緒に住んでいる」と回答したのは、学生で63.0%、社会人で61.9%であった。これに、親と一緒に住んでいないが「住民票を異動させてから3ヶ月以上たつ」と回答した人（学生で7.7%、社会人で22.6%）を加えた人たち（学生の70.7%、社会人の84.5%）は「現在住んでいる市区町村に選挙権がある」と捉えることができる。そうすると、「現在住んでいる市区町村に選挙権があった」人は、参院選前調査の方が今回の調査よりも学生で約6ポイント、社会人で約10ポイント高いことになる。但し、今回の調査は下図のとおり学生の9.8%、社会人の13.2%が「わからない」と回答している。「わからない」人の何割かは現在の居住地に選挙権がある可能性があるので、それを加えると、「現在住んでいる市区町村に参院選の選挙権がある」人は参院選の前後で大きな差異はないと言えることができるであろう。



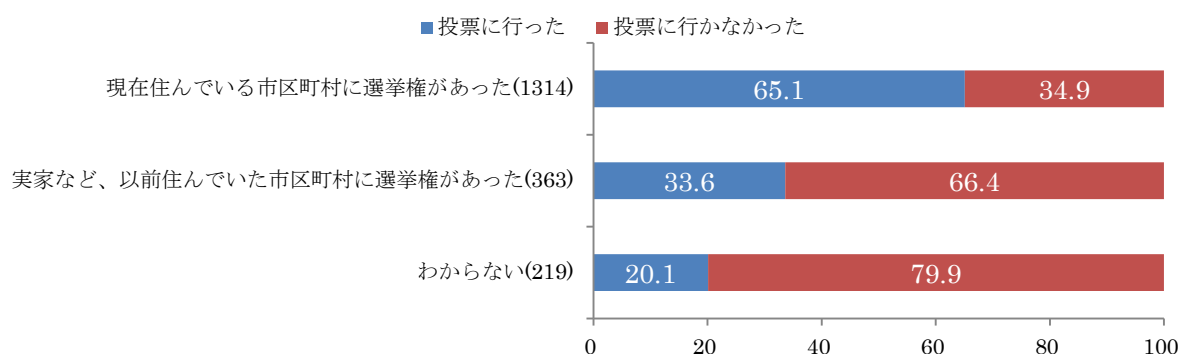
⑥ あなたは、7月10日（日）に行われた参議院選挙で、投票に行きましたか（期日前投票、不在者投票を含む）。

調査対象者全員に投票に行ったかどうか尋ねたところ、全体で 53.7%の人が「投票に行った」と回答した。このような意識調査では、実際の投票率よりも若干高めに出ることに留意する必要がある。

年齢別では新有権者である 18・19 歳、及び 20 歳は、21～24 歳の投票率より高い結果となった。



現在住んでいる市区町村に選挙権が「ある」人と「ない」とに区分して、それぞれの投票行動を見ると、下図のとおり大きな違いが見られた。



⑦ 7月10日（日）の投票日当日に投票しましたか、それとも期日前投票又は不在者投票をしましたか。

参議院選挙の投票に行った人(1,021人)にその投票方法を尋ねた。全体で見ると、「当日投票をした」人は67.9%、「期日前投票をした」人は26.3%、「不在者投票をした」人は4.3%であった。

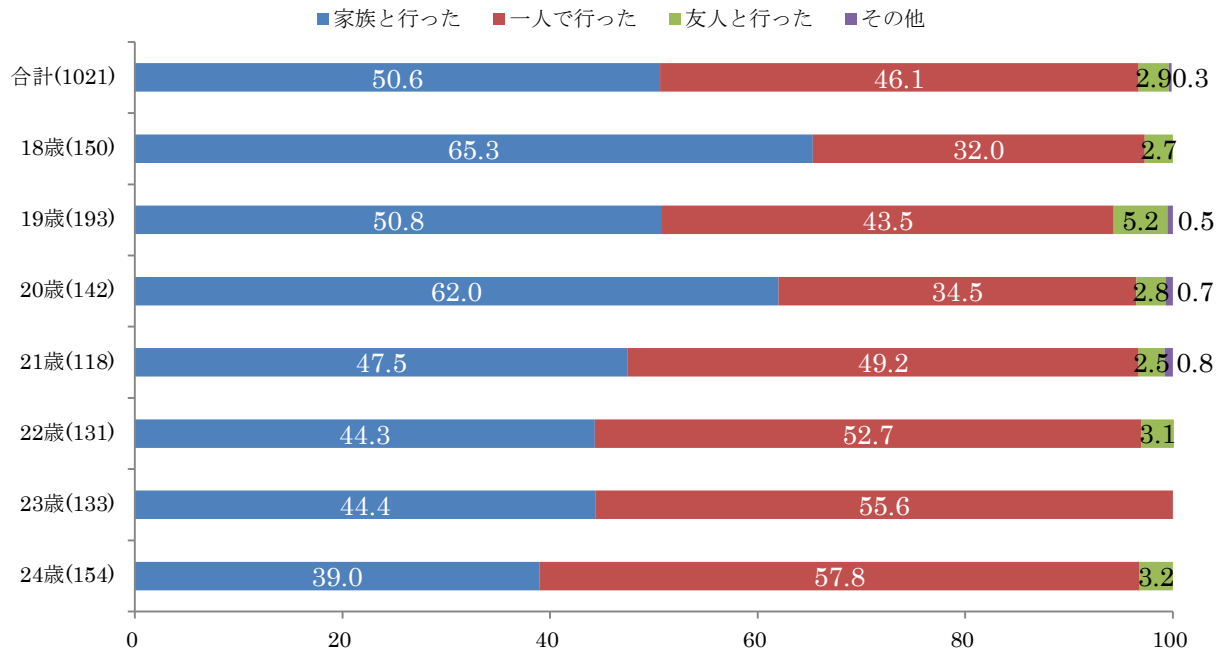
近年における不在者投票の利用率は、実際の選挙の調査結果によると1%前後である。これに対し今回の調査結果は高く、中でも18・19歳は突出して高い(18歳8.0%、19歳7.3%)。このことから「不在者投票をした」と回答した人(44人)の選挙権が参院選時にどこにあったかを検証したところ、75%(33人)は「以前住んでいた市区町村に選挙権があった」と回答しており、住所地と投票方法の関係に問題はなかった。残りの25%(11人)は誤答の可能性もあるが、これを除いても「不在者投票をした」人は全体で3.2%となる。18・19歳に限って見ると、18歳は83.3%、19歳は85.7%と、大半が「以前住んでいた市区町村に選挙権があった」と回答しており、誤答の可能性は低かった。

「実家など以前住んでいた市区町村に選挙権があった」人は33.6%しか投票していないが(⑥参照)、その投票方法は「実家など以前の住所地に戻り、投票日当日に投票した」が34.4%、「実家など以前の住所地に戻り、期日前投票をした」が36.9%、「不在者投票をした」が27.0%であった。

	現在住んでいる市区町村で、投票日当日に投票した	現在住んでいる市区町村で、期日前投票をした	実家など以前の住所地に戻り、投票日当日に投票した	実家など以前の住所地に戻り、期日前投票をした	不在者投票をした	その他	わからない
合計(1021)	63.8	21.8	4.1	4.5	4.3	0.4	1.1
18歳(150)	67.3	12.0	6.7	3.3	8.0	0.7	2.0
19歳(193)	63.7	20.2	4.7	3.1	7.3	0.5	0.5
20歳(142)	68.3	21.8	2.1	4.9	2.1	0.0	0.7
21歳(118)	53.4	25.4	5.9	8.5	4.2	0.8	1.7
22歳(131)	71.0	18.3	2.3	5.3	1.5	0.8	0.8
23歳(133)	59.4	30.1	1.5	7.5	1.5	0.0	0.0
24歳(154)	61.7	26.6	5.2	0.6	3.9	0.0	1.9

⑧ あなたは参議院選挙の投票は誰と行きましたか。

参議院選挙の投票に行った人(1,021人)に尋ねたところ、全体では50.6%の人が家族と、46.1%の人が一人で、2.9%の人が友人で行ったと回答した。年齢別では18歳、20歳が家族で行った割合が高く、19歳も50%を超えている。21歳以降は、年齢が上がるに連れて「一人でいった」と回答した割合が高い。



⑨ あなたが投票に行ったのはどういう気持ちからですか。次の中からあなたの考えに近いものをいくつか選んでください。

参議院選挙の投票に行った人(1,021人)に尋ねた。上位3つを全体で見ると「投票をするのは国民の義務だから」(42.8%)が最も多く、次いで「政治をよくするためには、投票することが大事だから」(41.0%)、「選挙に行ったほうが何となくいいと思ったから」(31.9%)の順となっている。年齢別に見ると、18・19歳では、「選挙年齢引下後に初めて行われた国政選挙だったから」が上位3位以内に入っている。選択肢ごとに見ると、「若い人の声を政治に届けたかったから」は年齢が上がるごとに選択率が低下し、「投票をするのは国民の義務だから」は年齢が上がるごとに選択率も増えていく傾向がうかがえる。

	支持政党があった、または当選させたい候補者がいた	若い人の声を政治に届けたかったから	親や先生から投票に行くように言われたから	政治をよくするためには、投票することが大事だから	投票をするのは国民の義務だから	選挙年齢引下後に初めて行われた国政選挙だったから	選挙に行ったほうが何となくいいと思ったから	その他
全体(1021)	16.9	28.0	17.5	②41.0	①42.8	18.3	③31.9	3.7
18歳(150)	19.3	31.3	29.3	①42.7	30.7	②38.7	③32.7	2.0
19歳(193)	14.0	32.6	17.6	②40.4	③37.3	①45.1	33.7	2.6
20歳(142)	21.1	33.8	19.7	①41.5	②40.1	12.7	③35.9	4.9
21歳(118)	13.6	21.2	18.6	②40.7	①44.1	5.9	③35.6	4.2
22歳(131)	16.8	22.1	12.2	②41.2	①48.1	6.1	③32.1	3.1
23歳(133)	20.3	27.8	7.5	②44.4	①53.4	3.0	③28.6	6.0
24歳(154)	14.3	24.0	16.2	②37.0	①49.4	3.2	③25.3	3.9

⑩ あなたが比例代表選挙で投票したのは何党、または何党の候補者でしたか。

参議院選挙の投票に行った人の内、「何も書かなかった」、「わからない・答えたくない」を選択した人を除いた人（812人）について、投票先を見てみた。全体では自民党に42.0%、民進党に19.0%、おおさか維新の会に8.7%、共産党に7.8%、公明党に7.6%の人が投票したと回答した。

実際の選挙での全投票者の得票率は、自民党35.91%、民進党20.98%、おおさか維新の会9.20%、共産党10.74%、公明党13.52%であった。これと対比すると、本調査は自民党が多く、公明党が少ない。民進党は大きな違いはない。

	自民党	民進党	公明党	共産党	おおさか維新の会	日本のこころ	社民党	生活の党	新党改革	その他の党
全体(812)	42.0	19.0	7.6	7.8	8.7	2.1	2.7	1.2	4.4	4.4
18歳(120)	40.8	16.7	8.3	7.5	9.2	2.5	2.5	0.8	5.0	6.7
19歳(151)	40.4	22.5	6.0	9.3	7.3	2.0	2.6	0.7	2.0	7.3
20歳(126)	48.4	18.3	8.7	6.3	5.6	0.8	3.2	0.8	4.0	4.0
21歳(94)	38.3	24.5	8.5	7.4	7.4	0.0	2.1	1.1	7.4	3.2
22歳(101)	38.6	21.8	5.0	5.9	12.9	2.0	1.0	2.0	5.9	5.0
23歳(107)	45.8	15.0	6.5	8.4	9.3	3.7	3.7	1.9	3.7	1.9
24歳(113)	40.7	14.2	10.6	8.8	10.6	3.5	3.5	1.8	4.4	1.8

（「投票に行かなかった」と回答した人に）

⑪ 投票に行かなかったのは、なぜですか。次の中からあなたの考えに近いものをいくつか選んでください。

参議院選挙の投票に行かなかった人(879人)に尋ねた。上位3つを全体で見ると「面倒だったから」(29.4%)が最も多く、次いで「選挙にあまり関心がなかったから」(26.4%)、「現在の居住地で投票ができなかったから」(22.8%)の順となっている。年齢別では18～20歳は「現在の居住地で投票ができなかったから」が最も多く選択されているが、21歳以降は年齢が上がるごとに選択率は低下する。22歳と24歳は「私一人の投票の有無で世の中は変わらないと思ったから」が、23歳は「どの政党や候補者に投票すべきかわからなかったから」が三番目に入っている。

	どの政党や候補者に投票すべきかわからなかったから	選挙結果の影響がどのようなものかわからなかったから	現在の居住地で、投票ができなかったから	私一人の投票の有無で世の中は変わらないと思ったから	政治をわからない者が投票しない方がいいと思ったから	今の政治を変える必要がないと思ったから	選挙によって政治は良くなれないと思ったから	選挙にあまり関心がなかったから	面倒だったから	その他	わからない
全体(879)	18.7	6.8	③22.8	16.0	10.8	2.8	13.2	②26.4	①29.4	14.0	9.7
18歳(100)	19.0	9.0	①30.0	9.0	11.0	2.0	11.0	③20.0	②23.0	18.0	9.0
19歳(129)	17.8	3.9	①28.7	11.6	12.4	2.3	13.2	②26.4	③23.3	17.1	7.0
20歳(99)	18.2	5.1	①31.3	13.1	11.1	3.0	9.1	③22.2	②29.3	12.1	6.1
21歳(139)	15.8	4.3	③23.7	13.7	5.8	3.6	12.9	②26.6	①28.1	12.9	11.5
22歳(134)	19.4	7.5	17.9	③24.6	11.2	0.7	11.9	①29.1	②27.6	15.7	11.2
23歳(146)	③22.6	8.9	18.5	18.5	11.6	5.5	16.4	②29.5	①33.6	8.9	11.6
24歳(132)	17.4	9.1	13.6	③18.9	12.9	2.3	15.9	②28.0	①38.6	14.4	9.8

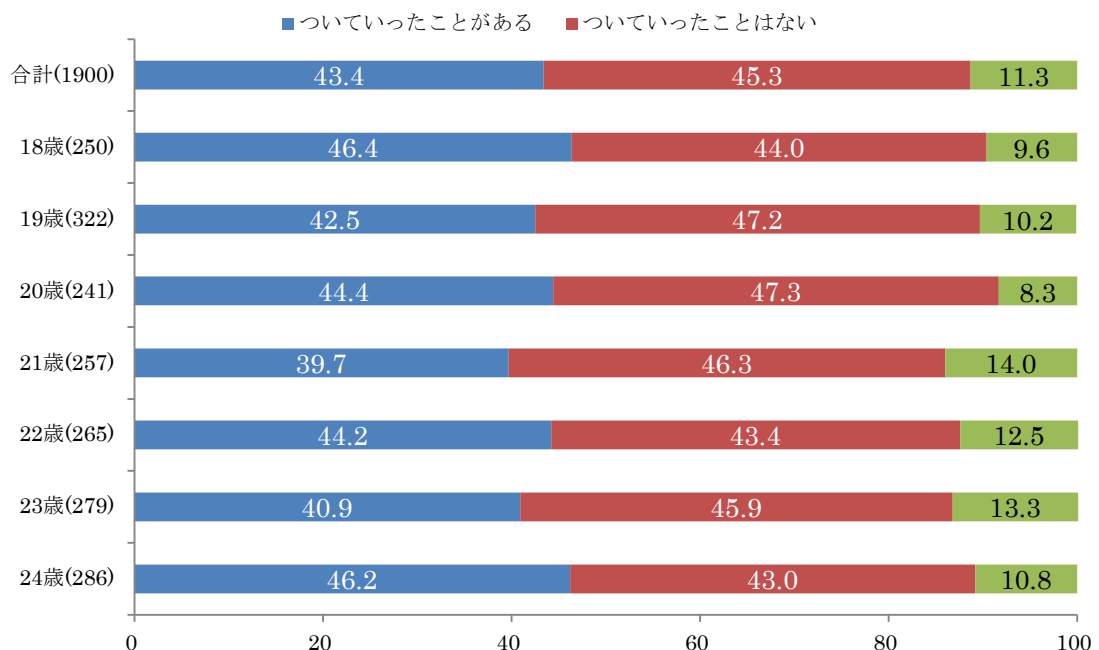
⑫ あなたが、政治や選挙に関して見たり聞いたりしたものが下記の中にありますか。あればいくつでも答えてください。

調査対象者全員に尋ねた。全体では「政党や候補者のポスター」(45.1%)、「テレビのニュースや報道番組」(32.1%)、「政党や候補者の政見放送」(22.2%)が上位3つとなっている。年齢別に見ても概ね同じ選択肢が挙げられる。「家族との話」は18歳が最も多く選択しており、19歳以降年齢が上がるにつれ選択率は低下していく。「どれも見たり聞いたりしなかった」、「わからない」の選択率は18～20歳は16.1%～17.2%であるが、21歳以降は20.2%～26.6%と増加する。18～20歳の人は21歳以降の人に比べ、何らかの選挙情報を得ようとしたことがうかがえる。

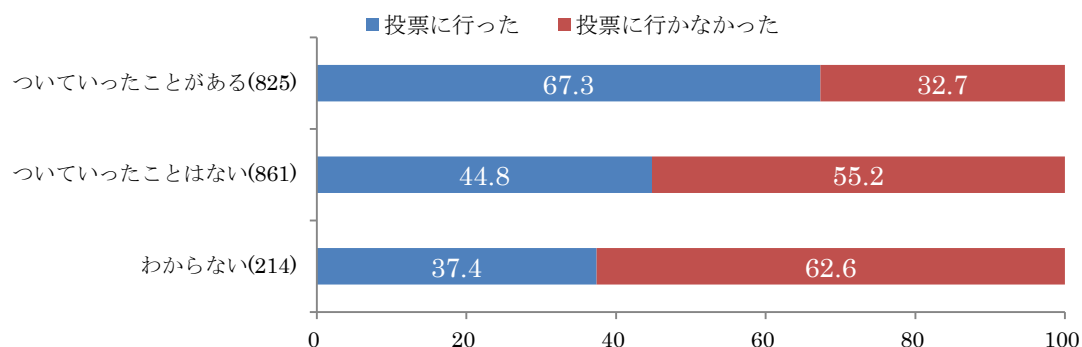
	政党や候補者の政見放送、経歴放送	政党や候補者のポスター	政党や候補者のホームページ、ブログ、SNSなど	選挙公報	新聞の政策比較まとめ	ポータルサイトの選挙情報	テレビ、インターネットなどの党首等討論会	テレビのニュースや報道番組	選挙に関する新聞の記事	インターネットのニュースサイト	街頭演説	公開討論会・合同個人演説会	家族との話	友人との話	その他	どれも見たり聞いたりしなかった	わからない
合計(1900)	③22.2	①45.1	13.8	17.9	10.1	5.3	10.5	②32.1	10.6	18.7	13.5	1.4	15.6	6.3	0.7	9.4	11.4
18歳(250)	③26.4	①53.6	16.0	16.8	13.2	4.0	11.6	②28.4	10.8	16.8	18.8	0.0	20.0	8.4	1.2	8.0	9.2
19歳(322)	③22.0	①44.1	14.9	18.6	12.4	6.8	9.3	②36.3	12.4	18.3	13.7	0.9	17.7	7.1	0.6	6.5	9.6
20歳(241)	21.2	①48.1	12.9	21.6	12.4	6.6	10.4	②27.4	10.8	③22.0	10.8	1.7	17.8	4.6	0.8	10.0	6.2
21歳(257)	③19.1	①45.5	12.1	17.1	7.0	4.7	11.7	②36.6	8.2	17.1	14.0	1.6	14.8	5.1	1.6	8.2	14.8
22歳(265)	③21.9	①45.3	15.1	19.2	8.3	5.3	11.7	②31.3	9.8	21.1	11.7	2.6	15.1	6.8	0.4	9.4	12.8
23歳(279)	③19.0	①40.5	10.4	13.3	7.5	3.9	9.3	②34.8	12.2	18.6	11.5	1.1	12.5	6.5	0.4	11.1	12.5
24歳(286)	③25.5	①39.9	15.0	18.9	9.4	5.2	9.8	②28.3	9.8	17.5	14.3	1.7	11.5	5.6	0.3	12.6	14.0

⑬ あなたは子供のころ、親御さんの投票について行ったことがありますか。

調査対象者全員に尋ねた。全体で43.4%の人が親と投票所に行ったことが「ある」と回答した。



親と投票所に行った経験のある人となない人に区分して参院選への投票行動を見てみると、下図のように大きな違いが見られた。参院選前調査では参院選への投票参加意欲(行くとと思う、行かないと思う)を尋ねたが、同様の結果となっている。幼少期等の体験が自らの投票行動に影響を及ぼしていることが考えられる。



⑭ あなたは高校（高専含む）の時に、次のような授業を受けましたか、またその授業内容は今回の参院選で参考になりましたか。

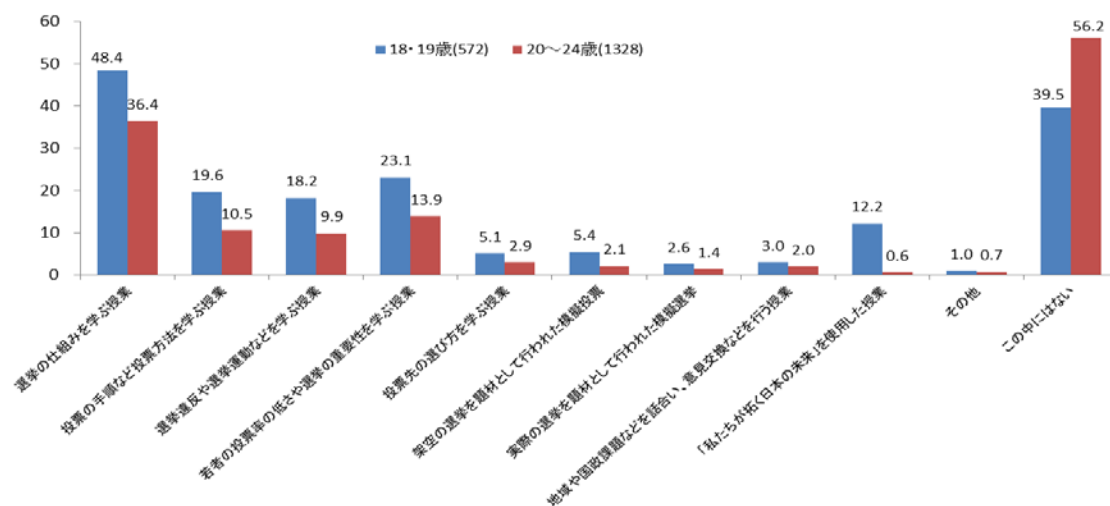
高校生の時に選挙に関する授業等を受けたことがあるか、それは参考になったかを調査対象者全員に尋ねた。「18・19 歳」、「20～24 歳」と2つのグループに分けて見てみる。

選択率に幅があるものの総じて 18・19 歳の方は 20～24 歳の方よりも選挙に関する授業を受けたと回答している。

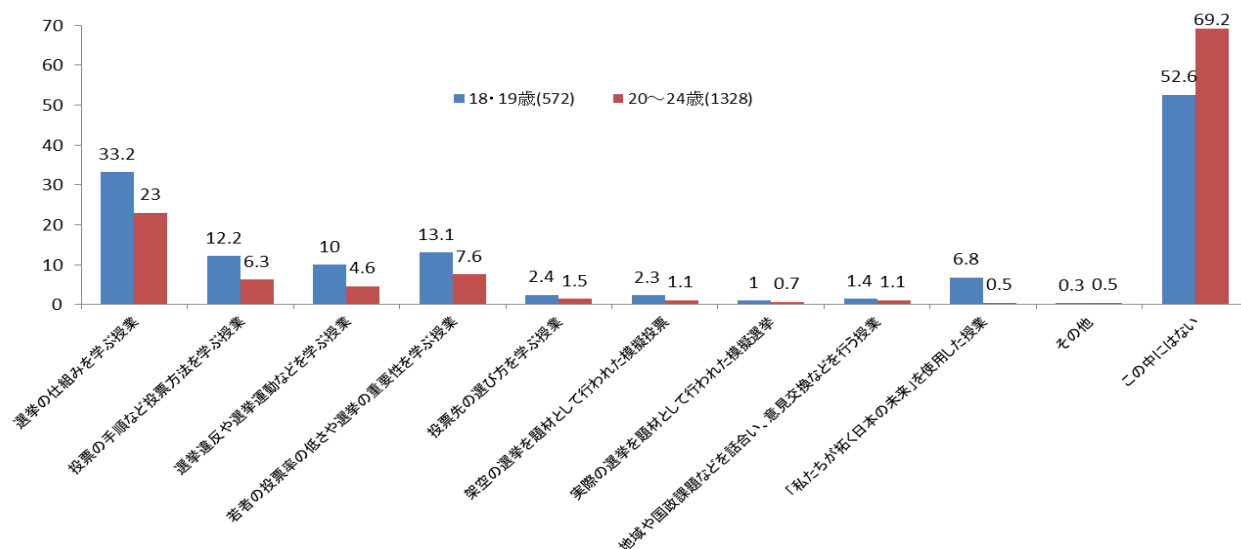
18・19 歳の方で見ると、「選挙の仕組みを学ぶ授業」は 48.4%の方が受けて、33.2%の方が参考になったと回答した。「若者の投票率の低さや選挙の重要性を学ぶ授業」は 23.1%、「投票の手順など投票方法を学ぶ授業」は 19.6%の方が受けて、それぞれ 13.1%、12.2%の方が参考になったと回答した。

いずれの授業も受けた人は半分に満たないものの、受けた人の過半数は参考になったと回答している。

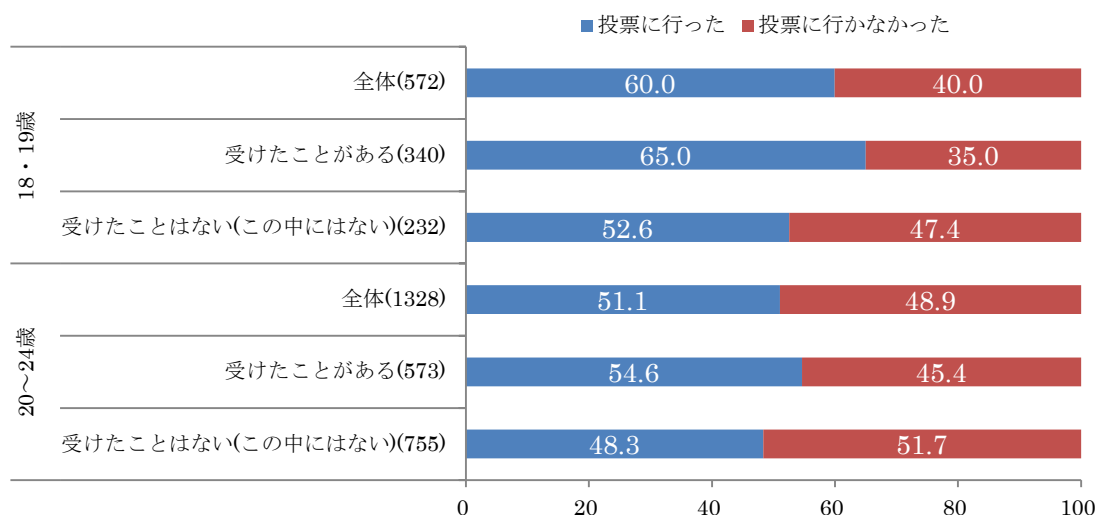
ア 受けた



イ 参考になった



選挙に関する授業を受けたことがある人と受けたことはない人（「この中にはない」を選択した人）の投票行動を、「18・19 歳」、「20～24 歳」に分けて見てみる。いずれも受けたことがある人のほうが受けたことはない人より投票に行ったと回答している。特に、18・19 歳で受けたことがある人の投票率は 65.0%に上り、受けたことがない人の投票率より 12.4 ポイント高い。



調査に関するお問い合わせ

公益財団法人 明るい選挙推進協会 事務局長 松永初己
 電話番号03(6380)9891 ファクシミリ番号03(5215)6780
 メールアドレス akaruisenkyo@mua.biglobe.ne.jp